

報道関係者各位

東京大学のゲノム医療研究プロジェクト本格始動へ 情報解析・知識データベースにテンクーが協力

東京大学が、このほど、がんのゲノム医療に関する研究を、本格的に始動します。その知識データベースの構築と情報解析に、株式会社テンクー（東京都文京区本郷4-2-5、西村邦裕代表取締役社長）が協力します。日本には、がんのゲノム解析に基づいた診断の確定と最適な治療法の選択に関する研究に重要な、遺伝子変異に対して臨床的意義づけを行う「がんゲノム医療用知識データベース」が、これまで存在しませんでした。テンクーはその知識データベースの構築、情報解析の一部にテンクーのソフトウェアであるChrovis（クロビス）を用いることで、データの収集・解析・自然言語処理・意味付け・判定などの人工知能技術、情報技術に協力します。テンクーは東京大学から委託契約を受けており、それに付随して本プロジェクトに技術協力します。この情報技術は、日本医療研究開発機構（AMED）「臨床ゲノム情報統合データベース整備事業」の研究にも役立てられます。

ゲノム解析によって得られるがん患者の遺伝子変異から、患者の最適な治療法、および薬剤の選択・判定に役立てる研究において、テンクーは、ゲノム医療における情報解析のためのソフトウェアChrovis（クロビス）の納入も含め、インフォマティクス面で協力します。ゲノムに関する医科学研究の急速な進歩で、関連する文献情報は年々増加しています。テンクーのChrovisに実装されているインフォマティクスの技術による自然言語処理を用いて、この膨大な文献情報を基に知識データベースを構築します。さらに変異に関する既存の公共データベースと知識データベースを高度に連携させることによって、網羅的に情報が検索できるようになります。また、日本すでに保険収載された分子標的薬と臨床試験中の薬剤とそれらに対応する遺伝子変異、遺伝性腫瘍に関する遺伝子変異などの情報を整理し、蓄積します。そして、これらを基に、がん治療の個別化を加速するうえで欠かせない、ゲノム解析の精度管理を高め、診療、研究に役立つシステムの構築を進めていきます。

株式会社テンクー <https://xcoo.co.jp>

東京大学大学院情報理工学系研究科での研究員・助教時代に、遺伝子発現やコピー数多型および次世代シークエンシング（NGS）によるゲノムデータ解析や可視化を行い、Natureなどの著名な論文誌等に成果を発表している西村邦裕が、2011年に株式会社テンクーを創業。Chrovis（クロビス）の提供を通じ、ゲノム医療、プレシジョンメディシンの継続的な発展を推進している。日経ビジネス"日本を救う次世代ベンチャー100"に選出されているほか、国内外の様々なアワードのファイナリストに選ばれるなど、注目の東大系ベンチャー企業。

株式会社テンクー 東京都文京区本郷4-2-5 光山ビル 3 - 4F TEL : 03-3868-2374 Email : info@xcoo.jp

Chrovis（クロビス）とは

個人に特化したゲノム情報の精密なレポートングを行うことができる、ゲノム医療における情報解析のためのトータルソリューションソフトウェアです。臨床検査基準相当の信頼性を保ち、次世代シークエンシング（NGS）による個人のゲノム情報をすべて自動的に解析し、膨大な文献情報を基にした知識データベースを用いて、患者ごとに個別化された診断・治療に直結するレポートを提供することを目的として開発しています。 <https://chrov.is>

本リリースに関する問い合わせ先

APCO Worldwide内 | 担当：サカリ・メシマキ | TEL : 03-6457-9702 | Email : smesimaki@apcoworldwide.com